二、阿曽保

ここは厳密な意味では未だ「廃村」ではない。しかし現存する板倉家もいずれ離村の予定ということで今回の調査対象とした。

調査に当たっては、現地調査、聞き取りに加えて、今回は離村された方を対象にアンケート調査を試みた。全員に近い回答を得られたことは幸いであった。

（一）景観

ア 位置

神岡町南部に位置し、高原川左岸、神岡町野首・東雲・麻生野・数河、そして蔵柱川を境として高山市上宝町吉野に接している。東雲と境するがごとく、神岡町上村より麻生野へ通じる「神岡カントリーロード」（後述）が走る。その中途に阿曽保は位置する。

イ 『飛騨国中案内』にみる村の姿

高二十一石八斗七升三合、内田高十二石三斗一合、畑高九石五斗七升二合、此反別二町八反二畝二十九歩、内一町二反五畝六歩田方、一町五反七畝二十三歩畑方なり。

非平地、坂懸にて、東雲村より相劣る歟。

家数大小五軒あり、家作茅葺の屋根なり。

この記述からおよその姿が浮かんでくる。なお家数は五軒とあるが、タダノ地区を加えれば八軒を数え、次のように各家は屋号で呼び交わしていた。

岩野（いわの）　福永（ふくぞう）　田仲（たんなか）
板倉（ちゅうべい）　徳永（しんざぶろう）
《タダノ地区》酒々井（？）田中豊（？）下葛（しんすけ）

ウ 阿曽保を見て歩く

今回も『神岡の街道五　ふるさと調べ第十九集』、（以下『街道』と記す）に引き続いて、板倉文作様・キヌ様ご夫妻に案内をしていただいた。

集落を走る旧道（信濃街道）に沿って、かつての屋敷跡を追うことにした。

最初に阿曽保薬師堂に詣でる。薬師堂は新しく、扉も開けて頂き、中に祀られている仏像を一体一体つぶさに調べさせていただいた。その詳細については後述する。

屋敷跡は岩野家・福永家・田仲家と続く。いずれも広い屋敷跡にはほと

現在の板倉宅

んど木もなく、往時の家屋の大きさをうかがわせてくれる広がりである。田仲家の離村は比較的遅く、建物は近年まであり、板蔵は現存している。

板倉さんは現住しておられ、家の前には枝垂れ桜が今を盛りと咲き誇り見事な眺めであった。段丘上に位置する板倉家から展望する阿曽保の集落は、『国中案内』に記すがごとく「非平地、坂懸」であることを納得させる。かつての耕地であったところは、今は草地となり、あるいは杉林となっている。

さらに歩を進める。

徳永家跡、地蔵堂、大正年間まであったという神明神社跡（後述）と続く。うっかり見過ごしていくところであるが、灯篭などの破片が転がり、かつての面影をわずかに残す。

道路を挟んで反対側に広がる耕地跡には、昭和四五年こ

ろ農協が設置した三町歩にわたるクワ園跡がある。二～三年で閉じられることになる（後述）。このあたりにはイノシシやカモシカが出没して作物を荒らすということで、捕獲用の鉄製の檻がいくつか設置されていたのが目を引く。熊は捕獲できないので、入っても逃げられるよう天井に穴があけられていた。

このあたりから道は下り坂となり、徳永家の弘法大師像跡、峠の地蔵を見てタダノ地区へ足を運ぶ予定であったが、旧道はすでに道が荒れているため車で移動することになった。

信濃街道は県道と合流するが、その合流点より少し南へ進むと「タダノ」地区とよばれる所がある。ここには三軒の家があった。すなわち下から酒々井家（今